

令和6年度 東京都立日比谷高等学校

推薦に基づく選抜

小論文

注 意

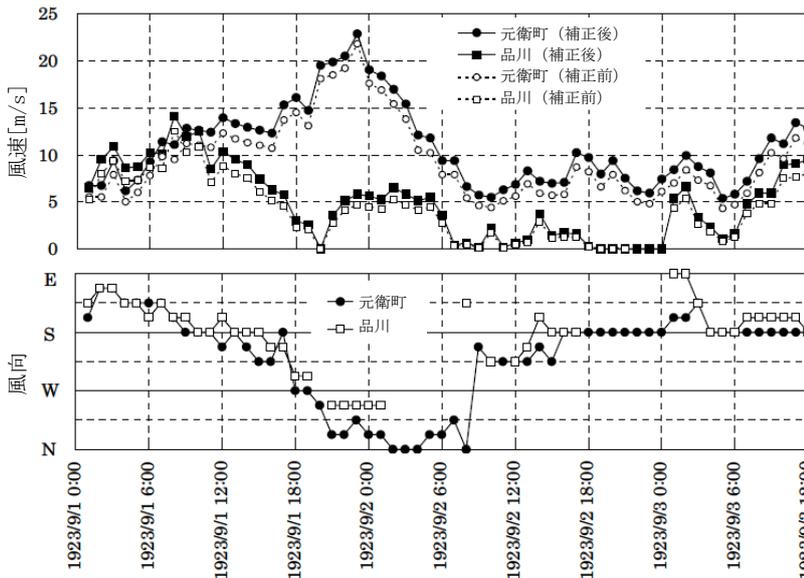
- 1 問題は、**2** ページにわたって印刷してあります。
- 2 検査時間は**50**分で、終わりは**午前9時40**分です。
- 3 声を出して読んではいけません。
- 4 答えは全て解答用紙に明確に記入し、**解答用紙だけを提出しなさい。**
- 5 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 6 **受検番号**を解答用紙の決められた欄に記入しなさい。

関東大震災は、大正12年（1923）9月1日午前11時58分に発生した、マグニチュード7.9と推定される地震によってもたらされた災害であり、令和5年（2023）は100年の節目に当たります。9月1日は「防災の日」と定められ、近代日本における災害対策の出発点となりました。

以下の問1、問2に答えなさい。

問1 関東大震災における旧東京市（東京市15区）の甚大な被害は、主に何によるものであったか。次の図1～図4より読み取り、被害が広がった原因を3つ挙げながら述べなさい。（140～160字）

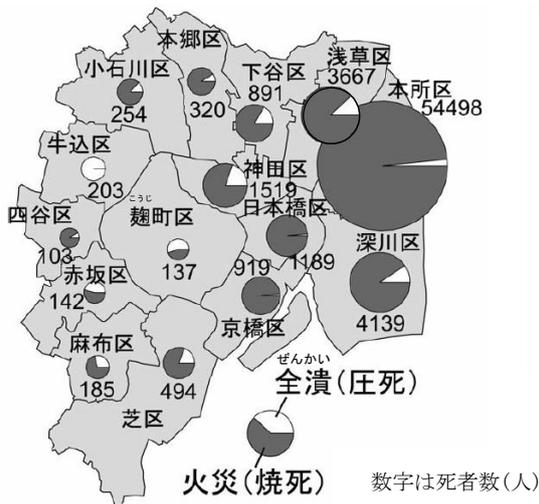
【図1】東京元衛町（中央气象台）、品川における気象の変化



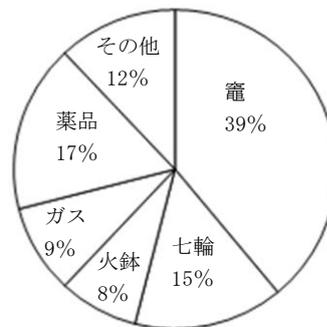
風速については、震災当時から現在までには、測器の変更などがあるため補正されている。

元衛町…現在の千代田区大手町1丁目付近

【図2】東京市15区の被害分布



【図3】出火原因



竈（かまど）…土・石・レンガ・鉄またはコンクリートなどで築き、その上に鍋・釜などをかけ、その下で火を焚き煮炊きするようになった設備

七輪（しちりん）…こんろの一種

火鉢（ひばち）…灰を入れ、中に炭火などをいけて、手を暖め、湯茶などを沸かすのに用いる具

【図4】関東大震災当時の東京市15区と現在の東京都23区

	面積 (km ²)	世帯数 (世帯)	人口 (人)	人口密度 (人/km ²)
東京市15区 (大正9年)	81.28	456,935	2,173,201	26,737
東京都23区 (令和5年)	627.53	5,285,751	9,717,480	15,485

（【図1】～【図4】は中央防災会議「災害教訓の継承に関する専門調査会」の『1923 関東大震災 報告書』より作成）

問2 「地図記号」は、国土地理院が定める「図式」で決められています。2万5千分1地形図の地図記号は全部で134種類あります。あなたは今、135種類目の新しい地図記号を考えました。その地図記号を描き、その地図記号が意味するものとそのデザインにした理由、あなたのデザインした地図記号が新しく加わることによる社会的意義について、図5～図8を参考に具体的に述べなさい。(400～440字)

【図5】代表的な地図記号とその由来

	…稲を刈り取ったあとの形		…そろばんの珠と軸の形
	…植物の二葉の形		…「警棒を交差させている」ところ
	…広葉樹を横から見た形		…神社の参道入口などに立っている鳥居の形
	…火口の形と火口からの煙の形の組み合わせ		… <small>まんじ</small> 卍の形
	…むかし裁判所が裁判の内容などを知らせた立て札の形		…築城工事をする時の縄ばりの形

【図6】134種類目の地図記号



【図7】日比谷高校の近くにある自然災害伝承碑の情報

碑銘	工部大学校 <small>し</small> 階碑
災害名	関東大震災(1923年9月1日)
災害種別・ <small>こんりゅう</small> 建立年	地震・1939
所在地	東京都千代田区 <small>かすみ</small> 霞が関3-2-2 文部科学省構内
伝承内容	大正12年(1923)9月1日の関東大震災は死者10万人、全壊・全焼30万棟を超える日本史上最大の自然災害であった。この地にあった過去に工部大学校として使われた建物も倒壊し、復興事業で文部省や会計検査院などが建てられた。碑は倒壊した建物のレンガなどで作られている。

【図8】自然災害伝承碑の取組

我が国は、その位置、地形、地質、気象などの自然的条件から、昔から数多くの自然災害に見舞われてきました。そして被害を受けるたびに、わたしたちの先人はそのときの様子や教訓を石碑やモニュメントに刻み、後世の私たちに遺のこしてくれました。

その一方、平成30年7月豪雨で多くの犠牲者を出した地区では、100年以上前に起きた水害を伝える石碑があったものの、「石碑があるのは知っていたが、関心を持って碑文を読んでいなかった。水害について深く考えたことはなかった」。(平成30年8月17日付け中国新聞より引用)という住民の声が聞かれるなど、これら自然災害伝承碑に遺のこされた過去からの貴重なメッセージが十分に活いかされていないとは言えません。

これを踏まえ国土地理院では、災害教訓の伝承に関する地図・測量分野からの貢献として、これら自然災害伝承碑の情報を地形図等に掲載することにより、過去の自然災害の教訓を地域の方々に適切にお伝えするとともに、教訓を踏まえた的確な防災行動による被害の軽減を目指します。

【図5】～【図8】は国土交通省国土地理院のホームページより作成)